

企業名： 名古屋鉄道

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「名鉄グループ長期ビジョン」という章には、前中期経営計画の振り返り、中期経営計画、長期経営戦略のほかに、将来ありたい姿である経営理念と、経営理念をどのように実現していくかという経営方針、さらに経営理念を支える使命が、ピラミッド状の図を用いてわかりやすく書かれている。これによると、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」という使命のもと、「豊かな生活を」という経営理念を実現したい、という名古屋鉄道の目指す姿がわかりやすくまとめられていた。

また、この長期的な目標を達成していくために、3年間の中期的な経営計画をたて、具体的な課題と目標が設定されている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「名鉄グループ価値共創プロセス」という章には、名古屋鉄道の強みがリンゴの木のイラストを用いてまとめられており、この会社が地域に根差した事業を展開していることがわかる。

また、「ESG への取り組み」E(Environment、環境)、S(Social、社会)、G(Governance、企業統治)のそれぞれの項目についても、名鉄グループがこれまでどのように課題に取り組んできたか、ということが図表や写真とともに説明されており、非常にわかりやすかった。

これらのことから、名古屋鉄道の強みが、「地域に根差した会社であること」「ESG に本気で取り組んできたこと」だということがよく分かった。これは経営理念を支える名古屋鉄道の使命と同じであり、ここからもこの会社がどのような点が自社の強みであることをしっかりと理解していることがうかがえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

「ESG への取り組み」という章には、名古屋鉄道のサステナビリティ基本方針として、ESG の取り組みを持続的に行うことで、どのように名古屋鉄道の競争優位性を持続させていくか、ということがまとめられていた。

また、「名鉄グループ長期ビジョン」という章では、新型コロナウイルス蔓延の影響で2020年期中に大きな損失を計上したことを教訓とし、ここからどのように2021年期中に持ち直すかを中期経営計画でまとめていた。ここからも、名古屋鉄道の問題解決能力と、競争優位性の維持をどのように行うか、がまとめられていることがわかる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「ESG への取り組み」という章に、この会社が ESG のために実際にどのような活動を行ってきたか、がまとめられていた。これらの活動から、環境問題への取り組みや社会貢献などを通じ、人的資本の価値向上に努めることができる。

また、「提供する事業・サービス」という章では、名古屋鉄道がどのような事業を展開しているのかと、その具体的な事業内容が書かれている。ここから、この会社でどのような仕事ができ、どのようなスキルが得られるかがわかる。名古屋鉄道は広範囲にわたって事業を展開しているため、得られるスキルが多岐にわたるのも強みである。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この統合報告書を読んで、名古屋鉄道がどのような会社であり、何に力を入れているのか、というのがよく伝わってきた。しかし、以下の3点に改善点があると考えている。

- ① この統合報告書を通じて、自社の強みを簡潔な言葉でまとめた部分があまり目立っていないように見えた。もちろん統合報告書はしっかりと読む人に向けて作られているため、名古屋鉄道の強みは読めばわかるようになっているが、大きな文字を使うなどして、自社の強みをもう少し目立つようにアピールしてもよいと思う。
- ② 5、6 ページのリンゴの木を使った図が、太陽・枝・葉・実などのそれぞれの部分が何を指しているのかわかりにくい部分があったので、もう少し解説を入れてほしい、と感じた。
- ③ 社員がどのような活動を行っており、どのような考えを抱いているかを掲載してほしい、と感じた。社員が自社に対して考えていることもその会社の強みになるため、その点をアピールするのも大事だと思う。